



かねこ たかし
兼子 靖基 議員



学校における児童生徒の熱中症対策

問 猛暑日や夏季における通学方法について、児童送迎バスの新たな運行を考えているか。

答 児童送迎バスの新たな運行は現時点では考えていない。将来的には、学校の在り方も含めて検討していく必要がある。その中で子どもたちの安全をどう確保していくか、さらなる通学路の安全確保についても検討していきたい。

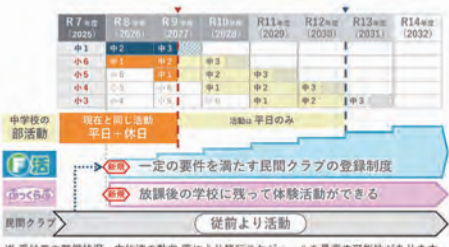
部活動の地域展開

問 保護者の経済的負担への対応策は。

答 経済的な状況を理由として子どもたちの活動機会が失われることのないよう、支援について検討を進めたい。保護者や地域、企業や大学などの協力を得て、受け皿や指導者を確保し、子どもたちが安全に活動できるよう取り組んでいきたい。

問 断熱化・空調設備の整備は。

答 学校体育館への空調設備設置に向け、機器の選定や、遮熱化などを含めた事業費の算出、財源の確保、スケジュールなどを整理し、できるだけ早期に整備できるよう取り組みたい。



学年進行と部活動・地域クラブ活動の状況



やまだ たかこ
山田 貴子 議員



デジタル教育の現状

問 学習面でのどのような効果があり、課題があると認識されているか。

答 各学校では、子どもの学びの姿を想定し、授業の展開の仕方や設定した課題を踏まえ、ICT機器を効果的に活用している。課題は、教員によってICT活用の質に差が生じており、教員の資質・能力の向上に取り組む必要がある。

茶振興に係る企業との連携

問 茶産地育成事業の取組は。

答 市内の複数の茶加工程業者が、大手飲料メーカーと連携した茶産地育成事業を進めている。また、袋井茶振興協議会を通じて、大手ドラッグストアのプライベートブランド商品に袋井産茶葉が採用され、全国で販売されているなど、大手企業と連携した袋井茶の振興が図られている。

問 デジタルと紙媒体の併用は。


答 子どもたちの「深い学び」を実践するためには、デジタルツールだけでなく、紙媒体との併用はもとより、他者との対話や議論を経て、自ら考え、答えを求めていくことが重要である。袋井型の授業づくりを推進し「考える力」の育成に取り組むみたい。



袋井産茶葉の使用例



かねこ けんじ
金子 晃久 議員



災害対策の取組

問 地域を水害から守るため、蟹田川の早期改修に向けた今後の方針は。

答 県が事業を進めている蟹田川については、河川改修に必要な用地がまだ2割取得できていない状況。二級河川太田川水系蟹田川整備促進協議会の協力を得ながら、引き続き県と連携を強化して地権者との交渉を重ね、事業の推進に向けて努力していきたい。


自治会の在り方

問 未加入世帯への加入促進を市として後押しできないか。

答 自治会の状況はそれぞれ異なるため、市が統一的なルールを定めることはできないが、市としても自治会加入の意義は十分理解している。状況をしっかりと把握した上で、自治会長、自治会の皆さまと連携し、加入促進の後押しをしていきたい。

問 外国人市民との防炎協力は。

答 まずは企業や日本語学校、国際交流協会などを通じて、地元の防災訓練への参加を促したい。外国人市民が集まる場でヒアリングなどを行い、防災に対する知識なども確認していきたい。



外国人市民を交えた防災訓練の様子